学校法人ISI学園　専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2022年度　シラバス

1．本授業科目の基本情報

科目名（コード）	薬学応用Ⅰ		（TCM209）
講義名（コード）	TCM_薬学応用Ⅰ		（TCM209）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	日中医療通訳コース	単位数	2
授業担当者	ホイ　リキ　ニコル	時間数	30
成績評価教員	ホイ　リキ　ニコル	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2．本授業科目の概要

到達目標・目的	医薬品に関する全般的な知識を修得し、日本の病院、薬局での医薬品使用実態を理解する。現場にて医師、医療者の医薬品説明を理解し、医療通訳者として患者に正確に伝える能力を修得する。
全体の内容と概要	講義と演習・模擬通訳を組み合わせ、受け身で講義を聴くだけでなく、毎回生徒に参加、発言させる。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3．本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件				
評価基準	知識（期末試験点） 60%		自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数		出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容	
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。	
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。	
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。	
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。	
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。	
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

４．本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 精神神経に作用する薬・風邪の症状が起こる仕組み
2	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 精神神経に作用する薬・風邪薬の主な配合成分
3	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 精神神経に作用する薬・風邪薬の副作用と相互作用
4	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 精神神経に作用する薬・熱が起こる仕組み・解熱鎮痛薬の配合成分
5	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 精神神経に作用する薬・眠気を防ぐ薬の働き・主な配合成分
6	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 呼吸器官に作用しり薬・鎮咳去痰薬の働き・主な配合成分
7	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 呼吸器官に作用しり薬・口腔咽喉薬・うがい薬（含嗽薬）の働き・主な配合成分
8	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 胃に作用する薬の働き・主な配合成分
9	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 腸に作用する薬の働き・主な配合成分
10	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 心臓などの器官や血液に作用する薬　高コレステロール薬の働き・主な配合成分
11	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 心臓などの器官や血液に作用する薬貧血薬・その他の循環器用薬の働き・主な配合成分
12	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 痔疾用薬・婦人薬の働き・主な配合成分
13	学んだことを再度総復習する	講義 前期講義の復習、テスト準備解説
14	テスト	テスト
15	テスト解説	テスト解説

５．本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	「医薬品登録販売者試験」テキスト＆要点整理　薬事日報社
参考文献・資料等	
備考	